

《担当者名》 高橋尚明 下村敦司 森元良太 入江一元

【概要】

解剖学は人体を対象とした学問体系の中で最も基礎的な学問であり、臨床症状とその要因を関連付けて考察する際にも必須の知識である。臨床症状の原因を解明するには、解剖学を局所的に掘り下げて、構造だけではなく機能的な視点を持って学び、考察を深める必要がある。解剖学特論では、様々な臨床症状に対して、構造的視点と機能的視点を通して、その予防方法や治療方法を、学生自身が調査・考察することを学ぶ。

【学修目標】

リハビリテーションに関する基礎的研究や治療方法の探求を行うために、解剖学的手法を基に身体の構造と機能を理解する。

1. 解剖学の学問的歴史を説明することができる。
2. 臨床症状を解剖学的な視点を持って調査することができる。
3. 臨床症状に関する調査結果から、その予防方法や治療方法を考察することができる。
4. 解剖学的構造と機能を、運動学を始め関連する他科目と関連付けて考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 12	四肢と体幹 頭部と頸部	四肢と体幹を中心に、構造と機能について局所的に習得し、理解する。 頭部および頸部の構造と機能について局所的に習得し、理解する。	高橋尚明 下村敦司 森元良太 入江一元
13) 15	研究倫理 生と死の尊厳	人を対象とする医学・生命科学に関する倫理の基礎知識を理解する。 安楽死をめぐる倫理的な議論を通して、生と死の尊厳を理解する。	高橋尚明 下村敦司 森元良太 入江一元

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の内容に伴うレポートを課題とし、評価を行う。（レポート100%）

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

授業内容について、事前に紹介する書籍や文献等を活用して予習を行うこと（約120分）。

授業後は、授業資料や授業時に紹介した書籍や文献等を基に学習を深めること（80分）。